



埜集下



蜀王の保法を以て帆をけし

きくまの船のつらき海を

横あしをさすや田舎の帆をけし

瀬川の舟のつら

み斗の舟をけし 舟の技師

万葉の舟

舟のつらき 舟のつらき 舟のつらき

全下

相模の画に

ゆく秋やありのしの國に彩れしを

貞徳の像より

世にのこるは命や道の初時白

新婦を嘆く

多代におく事なきはふの白髪と

白帯の画に

糸をおる風の回りの白帯

傳昌寺の女よ

佛やそ細折るより一とあはれふ

実山帯おられ終に

ちれみそ手拂はけし御の如帯は

帯に造りの画

鳥おに文字もと造りやおのち

秋より娘子の絵

席の妻よりおのち 籠をさるまゝに

蝦貝蛸やせきり画に

鱧のりゝ物と湖干の七巻止

雛や招你なまゝ画

鰯も雛を白りん招你け

月ひ牛の絵にまの白とどろけ

月を舞くまゝをまゝしり行

撫に錦幅の絵り

かきもちや月夜人とりわら

忍はまはれまゝにわらうの画

初夜——まゝに入りし西のい

まゝの絵

かきもちの絵にまゝにわらう

山筒削——絵の画に

師もまゝに絵にまゝにわらう

西王母の画

まゝにわらう——初夜招你もわらう

小櫃の宝珠の画に

にまの山に 松く庵く花の宿

夢の 是れをゆくゆくは

夢を 夢く 夢又 夢く 夢か

梅の 後に

君の 代の 夢人 かく かく かく

本母の 夢の 画

夢の 夢の 夢の 夢の 夢の 夢の

六、 社の 画

確も 何く かく かく かく かく

獅子 舞の 絵

おハセ 人 物に 牡丹の 十二 朝

夢と 夢と 夢と 夢と 夢と

く かく かく

夢の 夢の 夢の 夢の 夢の

雞の 鶏の 鶏の 鶏の 鶏の

の字無印

景下 依り 懸る 鶯戸あり 景

此の 妖され 画に

妖 おやう 依り 尾より 柳の くれ

さくら の 絵に

福や 雲の 柳代り 時や 年の 暮る

片の 絵に 尾より 柳の 画に

わー の 絵に 友 柳を 尾より 柳

福流 舟の 絵に 柳の 絵に

景 柳の 毛 柳より 柳を 柳

柳に 柳の 画に

柳を 柳 柳を 柳の 柳

流れり 柳の 絵に

あー 柳を 柳の 柳の 柳

八十の 柳

柳の 柳の 柳の 柳の 八十の 柳

牛の 川 柳の 画に

半に先作遊々をてや守り近

柳に鶯の画

鶯の尾も驚れさくく柳に

寒山拾得の画

四の膽ゆり川ききく鶯も

木多夜さゆ人々に候也

夢くゆけさくも春さの時を

福源春の絵

推くも多の扇くあさめや喰む

茶室 二川の絵

三川くちあや 始れはかきか

梅いさあひ双枝かけられ画

寺まのいきうきよりさく梅の糸

幸み子父の妻いあふち吊し

梅雨をれきし知くし袖あふいひも

七十の絵

國にけしきよきものみ木やたの杖

舟に登りてまじりて後

梅やゆきを雪や舞いて早も遅

つらき人の情の画

あまきまを虫のねもや初あま

なき前に流るる後

りきりのみやけの川と体せ時

故屋に菊の画

時々 前にかきり 月と梅

妻に梅鉢の絵

麦杖やあしとま傳へ流るる教

舟にあしづの画

舟にうさぎ 樹をこえて中村の絵

奴乃をわき抱ふる画

豆蔵とてうさぎ 奴乃をわき

月よりあまの絵

世に何れに何れに何れに何れに

先に新一の画

世に何れに何れに何れに何れに

喜の画に

世に何れに何れに何れに何れに

万思如為弊序を汚す世を

いふに新をいふ事あり何れ

己身まゝに事ありを我身を思て

のうれ情れ暑れ熱れ毒の蜂の毒

清濁の神々みに剣と柄を思

野に花を喜や花待りよとる

蒲萄乃後

そのふれまもさう蒲萄は

中秋サリと川一筆の喜に

夢に横よふ船の月の光

暖きを伴

減れ交を流く方とおろを流るる

九月五日其終言に折れて

まづ折一なる月又の後の月

折一なる川の画

三人のまゝにと書やあきらま

折一なる子の画

ちるを告かや折一なる

折一なるを流く川の画

書家七 菊時中 一 折一

月一 折の絵

折一の月を流く折の流るる

折一のなるの折る画

折一の田や平野に川を流るる

折一の画

松平一や筆を流して市にあ

折一の折るのまゝの画

今此の霸 乞ふく御中戸終の終

天王奉納

たのりーや宮中もさうよあより

熱田奉納

藤原中も交ふ如光や放生も

白山奉納

夢清ー新らたもあより今あ月

新地奉納

お寺かよりあや連理のさきの技

さき地に終の画

夜かよーの明のさき地やあより

乞ひつ父の妻をりよ

をさより神も海の中いりよー

前いさ終をのせより終い

夕靨きのつらぬさきの扇くれ

柳に遊の画

かろく時ちれり 柿に遠く

山姥の画に

里芋の月又あつてや山芋り

橋に 鶴の画

糸をく 足塚実一 ちり 鶴

秋のまゝも亮亭に 折られて

まゝ市ノ堂へくりあつ 秋のまゝ

十一の 龍世音く 母の

龍さいーかゝり 佛の法えり

福源寺の 巻

綿つゝのまゝに 信りて 繋あつ 糸

芭蕉の 巻

柳け又け 古の 巻 此 月

福源寺の 巻 此 月

より 巻 此 月

今年 破れて 上つて 漏る 中村 時 巻

山々の後に

海山の松やいろはにかけぬ

雲の山々此色

申、松の網もさきや雲の朝

芋の画

善如阿そ芋にふる松の半くも

雲の松に終りの後

は世、雲やあつと曇る松の終り一お

雲の山々此色

雲にけさ松々交まひー松小舟

それま松の画

ちくねあに雲はそ多ー朝の朝

その松もろく一松をワされ

多し人にさきさきあ

十月の赤中一人のワされふ

大松の儿書平より始く又通

——白き雲の区——

峰かす色 新段 岬海の友 象

海 敵の 画 後

終いに川を幸の定は也 終に貴

牛いのり〜川を渡ら画

牛〜了〜れ 終や 天の天 此川

其角子 徳 徳 徳 徳

其の 終の 終の時—— 終 終

終 終 終 終 終 終 終

麻をらに〜〜や 麻いにをあら

え 終の 終に

破 了らの 終 終と 終て 終めら

友 事 以ら〜〜 終〜 終〜

終 終の 終と 終を

子 帰 け け け け 終を 終に

又 終の〜〜に

又もきくま〜と世の交際

傾城の門前の傍におく〜

折ふ里やあそびや春の川

柳下柳の葉の陰

蝶の葉や柳にけれ云分列

雲に影影の画

旅々まじり〜一柳も雲の中

葉々まじり〜文意の表〜

か〜い〜と寂〜とわ〜と

福源寺の歌

〜〜と身物地にあり長ゆ〜

鹿の目切れ画

〜〜と〜と〜と〜と

た〜市カ〜に〜と〜と

〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と

紙に以ぬ二月の字や、まゝ大徳

移居茶のあやう、今年の花れ

よりおる不画綴

山々ぬりや、おしり、林檎の村時、白

紙のくに、梅の葉、こゝろ画

梅くくく、おしり、おしりの紙の、お

岩の形と、おしりの、おしり

くくく、おしりの、おしりの、おしり

浦沿に、おしりの、おしりの、おしり

鶴の世や、日五、おしりの、おしり

陸、おしりの、おしり

清く、おしりの、おしり

縁、おしりの、おしり

高の、おしりの、おしり

おしりの、おしり

おしりの、おしり

米布繰りかきつて二月十日

七夜に事りかれハ舞〜

七夜に事りかれハ舞〜

舞に歌のこまりた〜

歌のこまりた〜

舞に歌のこまりた〜

舞に歌のこまりた〜

舞に歌のこまりた〜

は申話や喜より〜

秋の山路に猿の音

心より画

高橋の足いをた〜

玉川に歌を〜

川上や〜

業平時〜

とた〜

又さくらや雪のふり 春さくら

二月廿五 後列の阿音の侍也

綿ねりも 袴して 別れや 旅の袖

松に 雁物の 画後

冬 雪のふり の 雪のふり 止ぬるを

松木に 袴の画

木かきしもの 袴を 袴さる 袴さる

松に 木織の 袴

秋風や 袴に 木織うけて 袴

大正の 袴の 袴の 袴の 画

より 袴の 袴の 袴の 袴の 袴

之 袴の 袴の 袴の 袴の 袴

之 袴の 画

ふり 袴の 袴の 袴の 袴の 袴

袴の 袴の 袴の 袴の 袴

又も 袴の 袴の 袴の 袴の 袴

後深身流さるる

乳母一を鳥懐くもさるる雙子

靉懐の画

大志と命一を子の子の川を懐

浦子塩谷の画

くらわく富をえむ田子も成哉

おももむに月の画

いづれも漏る者あはれ月の懐

去勢の画

若柳やつらうと歌の筆所

鶴の画にまじりたる画

甚明な鶴にみえり力の貴川を

柳に燕云七羽をくは画

二三羽をみたり破れむ燕

ふちり雛の画

田角をみたり子ちり雛うか

ききき入店とて

交とわりの先ず意中時を

おの格と新とて

多分の事とわりの事や

雪の山とて

江天に掛とて朝の雪

新室とて

ふ高とて軒や

牡丹にき

きききとて牡丹に

大室の餅とて

餅に掛とて

蓮の画に

蓮のふとて

井とて

わきとて

西行柳陰の四景

人三世あやうとせと柳小

知るるにりの画

草やえさるりのころ乳

月を建を歳の上り画

和いあうり前や牛のちを表は

草よみりせむ画

新まにけしきり数や柳あま

人の体ノ尊業をさるる

る貴州やかまらり此花を中

春の後のに

ちんぬを信せやきまのちを中

蜀の河をく後に

大い山海よまきや何年良

清暉の蜀に抗者を画

けうあまの角にあやり花林

狐の画に

惟克々貫つた所ゆく一哉

蓮の画に

花を結ぶに濁るる如し蓮の花

夏あまに月の後

月の光ややいそぐれぬ木ら園

中い牛の暮る影ら後

草刈き 鳥やうさねくち廊り

人の遊歩に

蓬いともれ世世を結ぶ影の果

宋垣に奔るる影の画

中いふりなきを長しきや時を

文意に

文意とそり増をあの白い水

解く一に前につれらるる

長き中戸前い影に影は

孟夏の画

筆戸梅り多し折る雪の也

新・冬へ移る

地の草先出ののれく所

一ノ乃 絵

厚の梅多一冬了折る雪の川

八景の画に二つとみく移す

雪をれて夕の梅のゆき 嵐の

雪の付れ身は冬厚 雨の境

梅の 菜畑の画

友の川や雪のいささき 折の雪

梅の 雪の絵

梅の 雪の絵

雪の 梅の絵

積の雪に雪探るせん 梅の

梅の

履とくわりのやき草を去

言わたり牛とて三匹の画

抑もやき草のいこして杜能

多りの人より後を

そ遠より一何々杖より高時白

暮らるる川画に

中よりくわりの草を去

つと草へ振るる

市中に人のあはれのみせ

暮りおとれたら人とて

飯屋に仕出さしむる酒

竹の影を伴

かやれやりのをくさるる月の夜

二季今母の影に

多れ今や人を去りし一松

影の影に

月もなき松のくわり松のそり

房に暮しの画

かひ多なき松のくわり松のそり

松にさしの画

松のくわりのくわり松のそり

山故一松のそり

又の松のくわりのくわり松のそり

業人十三四の画

月の子の松のくわり松のそり

又四女松のくわりのくわり松

等閑に松のくわり松のそり

破傘の画

昔の松のくわり松のそり

松のくわり松のそり

大星の松のそり

つりも松のくわり松のそり

畫一又い作のさか物技の
夕ををいれととさか所
やのとい

畫一書又さといのさか一
双の画にいふささか
いふ物にいふささか

おらの月とさか
梅にいふのさか

ふくかすぬ限ありりに梅のさ
流る天非の像に

さか通辞をいふ梅のさ
朱筆の画に

皆さか一向よるさか
梅のさか

さかおあつてや解るさか
梅のさか

夢の人。旅に汗くおもしろ

柳に蛙のあつゝゝ画

夢を枕に睡りてか柳に

浦空の飛にそよぐ風

去明くまゝおぼけぬ顔あり

牛のつゝ乃画

菰りゝの換子ゝあまさをあゝ

下巻を嵐の川ゝ画

下巻下はくや嵐と雲の谷

夕影に松の画

おるゝいゝ指を遠くを編のい

菱のまに鶴牛の絵

おきのまにわらゝゝわらゝゝ

長柄の櫓をわらゝゝ人の

くゝを水あゝゝゝ

能岡の海つむ人や松乃系

薄のちに鏡の画

初の家を薄にまむ内の名分を出
る山崎を坊して

おろし流るるやをまむるり

七十の暮に

おろし流るるやをまむるり
みだりなれり

みだりなれり

薄のちに鏡の画

薄のちに鏡の画

みだりなれり

みだりなれり

薄のちに鏡の画

薄のちに鏡の画

薄のちに鏡の画

薄のちに鏡の画

子子振るもれ画やあつて

秋草の画に

梅にけしきけしき

梅に四十雀の画

あつてあつてあつて

猫の画に

あつてあつてあつて

雨に蛙のあつてあつて

蛙さつてあつてあつて

あつてあつてあつて

あつてあつてあつて

あつてあつてあつて

あつてあつてあつて

あつてあつてあつて

あつてあつてあつて

あつてあつてあつて

人家ノ入画に

らり作れ花や露うらまはす

其木をに月や影の影

又くまゝや露に貴鳥と其の月

後海舟の舟に飛をたぐらぬ

都の暮乃年やうらまはす

茶師を納

後舟の舟をたぐらうらまはす

秋葉の奉納

舟に入ちや新れなまの舟の舟

舟の舟をたぐらうらまはす

舟の舟に舟をたぐらうらまはす

舟の舟をたぐらうらまはす

舟の舟をたぐらうらまはす

舟の舟をたぐらうらまはす

舟の舟をたぐらうらまはす

右側師一人の像を書き新

れをなをれり

筆に 執事あるを近世の人

おまの姿を吊し

おまの姿を吊し

黑白の氣り遠く作せり画

白くもくもくおまの氣り

布衣の姿に

ゆも 梅も 書き 多いのつれ

書き 人 像に あり 書き 画

書き 人 像に あり 書き 画

孤一の画

一 母 鴨 川 次 入 画

梅 花 画 あり 白 色 画

梅 花 画 あり 白 色 画

梅 花 画 あり

孫をとりて何々々々んぬの凡

抄の巻に鶴鶴の巻に

あり抄に何々いせの抄一々

用紙の巻の巻

本朝一々々々々々々々々々

大正の印の上いおらたら後

端々儀儀に抄りや印のく

梅に明儀の巻

きよの巻に川け巻の明多々

福源巻の巻

去初にうき巻の久々々々 三ツの朝

一月一巻を而ふ

物の巻巻のたんちと巻や多々々

夫の巻に

きよの朝巻々々々々々々々

巻一の巻に

世の人を輕かき掛るの如き

拙者にあつた後の画

運いゆの言よりきこしきあき

海にふたの画に

ふたにふたを信じてる生葉

笠に冠の画

新めの冠や一をふちぬあし

白魚を釣るる人に

きのきき川に岩あり明多り

福海家の絵

去初にふたをの久きり三ツの朝

一凡一喪を吊る

物の世居のたんちもきやあつた

夫の画に

きこしき綱世きききあきあき

繩の絵に

世の人を輕を拂ふの如き

拈手にある物の画

悪いもの言ふの如き一々ある

海に魚の如き画に

その他にも色々ある生業場

等に冠の画

舟の冠や一をふちの如き

白魚を釣る人の

白魚の冠や一をふちの如き

万牛の画

万牛やまゝを古問の報知

古問の如き網に魚の如き

舟の如き網に魚の如き

山の如き画

古問の如き網に魚の如き

東波の如き画

牛を牽く一と始る一終る一

万牛の画

万牛の終る一始る一

大あゝの画

福のいふむ大あゝの信如那

匡衡の光をよむ画

海を越へゆく舟の舟

修徳の光をよむ画

さくさく思ふやかりふ井の舟

徳後の光をよむ画

舟を舟に舟に舟に舟に舟に

舟の舟の舟の舟の舟の舟の

舟の舟の舟の舟の舟の舟の

舟の舟の

舟の舟の舟の舟の舟の舟の

舟の舟の舟の舟の舟の舟の

蒼きふ世のま——松の

松のまきりまの松鶴の画

夕の松のまきりまのまきりのまき所

まき所まきりまのまきりまのまき所

まきりまのまきりま

世のまきりまのまきりまのまきりま

まきりまのまきりまのまきりま

まきりまのまきりま

まきりまのまきりまのまきりま

まきりまのまきりま

まきりまのまきりまのまきりま

まきりまのまきりま

まきりまのまきりまのまきりま

まきりまのまきりま

まきりまのまきりまのまきりま

まきりまのまきりま

らん人

りまきとをやく花のそ逢ふ

雁猫の絵の画

まゝの牡丹とく花の猫のまゝ

松竹のまのまゝたる絵

浮つけとやや菊の朝かき

猿猴のまゝのつらゝる画

おまゝのまのまゝのまゝのまゝ

三年のまのまのまのま

湖を干ふりに浮城のまのま

女ふにるの画

うはまゝのまのまのまのま

かゝのまのまのまのまのま

ゆまゝのまのまのまのまのま

布衣の画

楯のまのまのまのまのま

白き雪のつらみおの娘

身いぢりぬあやま見しと悪草

石いぢりぬの面

世をさぬいぢりぬのあや

梅いぢりぬの面

木兔の得いぢりぬのあや

相お娘いぢりぬのあや

侍の娘いぢりぬのあや

おあぢりぬのあや

梅いぢりぬの面

侍いぢりぬのあや

おあぢりぬのあや

梅いぢりぬの面

おあぢりぬのあや

梅いぢりぬの面

おあぢりぬのあや

新塚寺の巻

神を〜一板も赤らり持てぬりハ

不為を師三月三日の父始〜新

事〜に事〜ありおま又の日
いひきき

おまの貝拾ふ潮干の〜〜〜

野牛〜年八十の長い男たの

志以〜法華を管止賢

乃々心おんれ〜

中〜とく程ふあのお、年一迄

筆の破れ〜の画い

筆ま〜と破れ〜不破の葉山〜

大空の巻

八景の〜と道いあり〜

梅に松の画

〜と〜に朝鑑〜り松の事

破人と抱〜れ画い

故中ゆんりやかりの道のり

らいにきりきり人の後

馬の目と道をもつてゆく折れし

すれども一田中折れし

葉き人の心にゆれなきま

朱一りきりの画

夢路の田中や葉きり竹一

七十の折れし

夢にきりきりにゆれし

地きり竹

ふのまやきりきりの道きり

きりきり竹の後

きりきりにきりきり竹の道

きりきりに竹の道

きりきり竹やきりきり竹の道

きりきり竹の道

折るれれやちのと思ふ柳

又在年思きの子れめ文あす

そのふきくま向ま 世 多

高の地砂に二句

身折らぬ身や折と折られぬ

折るやうと扇と子の色あは

柳の後に

多にまゝまのちまゝの柳

蟹の後に

月いりてかきさし 蟹をさし

鶴の画に

度々のまやま折れ世のちま

表の朝や 都をさしとん 強

鶴 折れぬいぬの 年と折の風

布袋の巻巾に黄をさす画に

巖 やく巻巾やゆふと巻い

味漢歌僊

也

物りよの声いよの若れ若れ

寢_レ過_レ愧_ツ昼_一顔_二六林

千_一麦_二流_レ流_レ村_一白_一

怪_一ふ_二き_レれ_レあ_レや_レあ_レの_一影_一有

月_一未_タ離_レ高_一藪_一

洋

〇

ウ

露 何_ソ 染_ニ 元_一 山_ラ 有

立_テ 場 新_一 酒 薄_レ 林

入_一 海 出_一 船 閑_リ

粧_ハ 神_ハ 投_ヒ 心_ハ 神_ハ 有

尾_ハ 神_ハ 有

お_ハ 妻_ハ 門_ハ 女_ハ 有

人_一 目_ハ 密_一 夫_ハ 關

宵_ハ 神_ハ 有

端_ハ 神_ハ 有

嘔_ト 咄_フ 相_一 撲_ノ 頁 有

噫_ト 歎_ス 奉_一 行_ノ 頓_カ 有

可_ア 惜_ヲ 花_ニ 無_レ 幕 有

糸_ハ 丹_ハ 有

薄_一 霞 孤_一 雁 暗_ク 林

古_一 寺 二_一 王 斑_{ナリ}

お_ハ 有

ニ

浅

浅

おりの振の丈帰るもか

有

折るの平く遠くも皆遠い

有

儒佛 互相 証

有

空谷も流の小橋に 甲川の清

有

雨の音くやんのかんく

有

了簡とちの 飛鳥のま所

有

木 賃 泊 人 怪

有

月 者 名 明 石

有

ニウ

秋 了 波 白 菅

有

き流の元き 墨流の如くし

有

流の 一 階 任

有

碁 毎 時 聚

有

鉦 敲 何 處 還

有

垣のふちれき 吾もを 不味く

有

岸 柙 水 溪

有

哉洋

四十五

漢和六々韻

六林

男一星 凡 厚一鬢質

月七後八 是九 如十 以十一 杖 也有

と道 一や とと 一葉 裨の 中方 了

墜レ 錢ヲ 無レ 處レ 求ルニ

馬一 離ラ 騷カセニ 同一 屋ヲ

林

ウ

路鳥 一泊 押スニ 虚一 舟ヲ

ナハ 一水 涼一 比部 落の 杖也

三三 屏セ 一々 一々 一々 留 有

吳名 一々 一々 換を 一々 一々 男一 一々

部如 一々 後と 一々 一々 一々 一々 一々 一々

冷一 飯 茶 且一 澀シラシ 林

特と 大切 一々 春戸 の 小 休

雪一 空 同ニ 月ノ 暈ヲ

二

不化以_レ本_レ客_レの_レ才_レ老_レ流_レ、
去_レ却_レ一_レ在_レ望_レ、_レりて_レ其_レの_レさ_レら_レか

九 條、京ノ片ノ阪_ス、 林、有

小ノ家 請、酒 薄、

長ノ局 好、食、優_ク、 有

藝ノ入 期、花ノ發、

同ニ_レり_レに_レき_レ、 悠、 林、

漢和四九韻

六林

垣ノ瓠 五ノ外 願_ヒ

り_レノ_レ新_レけ_レて_レを_レ送_レる_レ、

鹿ノ聲 迷、後、函、

猫ノ望 在、者、籠、 也有

字_レ尾_レに_レ病_レん_レる_レ也_レ、

るくややうくうん 儼何

持一鎗 奚ッ 失ッ 靴ッ

並本のまゝいかに 夕 虹

捨一子 啼_キニ 村一雨_ニ

葺一師 騷_クニ 落一風_ニ

寺一高_シ 山ノ 半一腹

月ハ 小_{ホシ}シ 海ノ 真_シ中

まをくくのくしてまのまろく

あまの 渡のえりれ 勢の

厄一羊 憚_ラニ 十_一九_ヲ

勢の一きせぬ 法 園 角

朝のいかにいかに 善のくろく

まづのまのい 勢のふゆ

ま川くまのい 依見 海 遠きま 遅下

繩_ニ 竹_シ泊_ス 表_ニ 貧_一窮_ヲ

まをく 庭かく 在平家のあつていん

有 林 有 林 有 林 有 林

成 祥

四十八

同

也
有

鳥ノ目 奈ニ名 月ヲ

相ト大ク、ちカカ、トキ 枚 六林

行ク 秋 隣ニ 驛ハタコヤニ

或一 日 樂ニ 山ニモヤニキ池ニ

草一 外 笛 親レ 耳ニ 有

道々ニ 節マ ちカ、 疑

盗人の 沙以 ぬり、ト 持そ、

衣キ 殺ソ、 清ハ、り、時 林

陸一 荷 備ニ、フ 牛 馬ナ

島一 臺 飾ル 鶴 亀ラ

媒下 譽ニ 支一 度、 速キヲ 有

使 毀ニ 返一 辭、 遅キヲ

幕、 洞心、 後、 癒、 下、

多、 々、 々、 雨、 の、 降、 々、 罷 林

只言れ身をあはれふと此舞 林

高一笑 各 抱レ願ヲ

何奴ハ必シに身ヲけテ以テ寄シ一ノ 有

隠者ノ為シるノ意ハ多ク凡ク吹 有

二 餅ハ堅シ春一雨ノ夕 林

まカらシきレきレきレきレの生ハ皮カ

此ハ子ハ婆ノ育チ 有

彼ハ僧ハ嫁ニ持チ 有

小枕ノかきけをぬくを以テ今ノ 有

一口ヲちシ聞ケぬ上湯湯 有

入ッッッ勢中ノ布のますレ 林

以テ以テの山子親 有

弓ニ名アリ源一頼一政 有

笠ニ識ル旅ノ宗一祇 有

乘一合一月ノ如シ昼ノ 有

西一天一の川ノ後 林

歳年

五十二

ウ

きよしはに日備し物不火柳除 有

拆^{ヒヤウレキ} 觸^レ = 一 時^ヲ 來^ル 林

屹^ト 守^ル 楠^カ 城^一 郭 有

よん 急^ク 乞^ム 一 一 一 解^ト 一 一 一 有

藥^一 師 專 賑^ス 夜^ヲ 有

大^一 黒 毎^ニ 汚^ル 煤^ニ 林

年^一 一 一 一 一 一 一 一 一 有

少^一 川^一 一 一 一 一 一 一 一 一 有

潮^干 に 一 一 一 一 一 一 一 一 有

失^セ 物 向^テ 他^ニ 猜^{ウタカフ} 林

一 一 一 一 一 一 一 一 有

大^一 一 一 一 一 一 一 一 一 有

被^レ 視^ル 初 塔^一 殿 有

為^{セル} 振^{ラフ} 御^ヲ 徒^{カチ} 魁^{カシラ} 林

月^一 の 一 一 一 一 一 一 一 一 有

忌^{レタ} 乎 燕 未^レ 回^ラ 有

文

二

冬^ニ雪^ハ似^ラ燒^キ鹽^ニ積^リ

坂^ノ山^ノ明^レル^ク春^ノ戸^ノ冬^ノ一^ノ枚

花^ノ所^ヲ知^ル彼^ノ岸^ヲ

漢^ノ水^ノの^ノ冬^ノに^ニ枝^ノ杖^ノ

冬^ハ憑^テ煎^リ豆^ニ催^ス

漢^ノ水^ノの^ノ冬^ノに^ニ枝^ノ杖^ノ

林 有 林 有 林

冬^ハ憑^テ煎^リ豆^ニ催^ス

漢^ノ水^ノの^ノ冬^ノに^ニ枝^ノ杖^ノ

冬^ハ憑^テ煎^リ豆^ニ催^ス

漢^ノ水^ノの^ノ冬^ノに^ニ枝^ノ杖^ノ

冬^ハ憑^テ煎^リ豆^ニ催^ス

漢^ノ水^ノの^ノ冬^ノに^ニ枝^ノ杖^ノ

冬^ハ憑^テ煎^リ豆^ニ催^ス

Hms 8 p 2

一人あつて休少き来かー
あつておろそか様 せん毫を
来時亭の意に採り

来時亭の意に採り



正
ララ

